



ワーカース・コレクティブの働き方に活発な質問 韓国ソウル大学学生の視察訪問

1月26日、韓国ソウル大学学生の皆さんと引率の先生、通訳の方総勢27名の皆さんが、川崎市と町田市にあるワーカース・コレクティブの4つの現場を視察しました。

ソウル大学福祉学科教授パク・ジョンミン先生が2015年日本訪問の際、ワーカース・コレクティブの活動に感銘したことから、ぜひ学生にも紹介したいと実現したものです。

立教大学の藤井敦史先生と留学生のイ・ヘリンさんにも同行していただきました。



川崎市麻生区「るーむら麻生」エントランスで

生活クラブ生協からデポー町田の運営受託事業をおこなっている、ワーカース・コレクティブharmonyの加川代表は「多様なメンバーと一緒に働くときに必要なことはお互い様の気持ちで自治していくこと」と話されました。



地域交流スペースで真剣にメモとる

共通点は、話し合って作る働き方と働く場

最初に訪れた、生活クラブ生協神奈川が運営する福祉施設「るーむら麻生」（川崎市）では、WNJ井上副代表が『ワーカース・コレクティブの概要』を説明しました。

続けて「通所・訪問・居宅・小多機の4事業の(N)ワーカース・コレクティブこもれび」「施設の食事や地域への配食サービス(N)ワーカース・コレクティブあいあい」「福祉移送サービスの(N)ワーカース・コレクティブそよ風」のメンバーが仕事への思いを話しました。3人のお話に共通したのは「今、提供しているサービスはいずれ自分たちが利用したいと思えるサービス。そして仕事へのやりがい」でした。学生の皆さんにも、自分ごととして仕事に向き合っている姿が映ったのではないかと思います。

質疑では「フラットな関係性での運営は課題が色々あるのでは?」「出資することをメンバーは受け入れられるのか?」など関心の高さを感ずる質問が多く出されました。

地域の社会福祉法人からの紹介で、記憶に障がいを持つ女性がメンバーとして働いていた報告に対して、学生からは「仕事の中でどのように対応していたのか?」との質問や「意見が合わない時に辞めさせることはあるのか」「委託する側の意見反映はどのように対応するのか」などの質問もありました。

「すべて時間をかけて話し合い、日々のコミュニケーションも含めて働き方をメンバーで作っていく」との返答に、ワーカース・コレクティブの働き方の共通性を感じたと思います。

これから社会を担っていく、若い世代にもう一つの働き方として、国を超えてワーカース・コレクティブを伝えられたと思います。(WNJ運営委員 風間 由加)

ワーカース・コレクティブ連合組織から

こんにちは

シリーズNo4
神奈川編

神奈川ワーカース・コレクティブ連合会は、1989年9月に25団体（在籍ワーカースメンバー968名）で設立しました。日本のワーカース・コレクティブ発祥の地である神奈川には、およそ30業種のワーカース・コレクティブがあり、116団体、約3,500名のメンバーが連合会に所属しています。



2月9日、県民センター展示場で2016年から続けている「わくわくワークフェスタ」を開催し、ワーカースの働き方をアピールしました。

連合会が発足してから、働き続けることを支え合う「共済制度」や、食材の「共同仕入れ」、ワーカース同足が金銭面でたすけあう「基金」、ワーカース・コレクティブの社会化をすすめる「NPO法人ワーカース・コレクティブ協会」、など、たくさんのおみやみや団体をつくり出してきました。9つの業種ごとの会議と5つの地域の会議を機関会議として、運動の推進と事業継続に向けた情報共有、課題解決の議論をすすめています。メンバー不足であることを受けて、地域会議で主体的に企画した【地域で働く説明会】を10月～11月に県内23か所で開催しました。

会員団体の中から、11月1日に労働者協同組合Lavoriが設立され、1月1日にキャリアが企業組合から労働者協同組合に移行しました。いずれもワーカース・コレクティブとしては初めてで、学習会で法人格取得に必要な情報を公開するなど、全国のワーカースをけん引しています。

「労働者協同組合法」法人格取得に向けて 法人格取得のポイントをまなぶ 大きな一歩を踏み出す会となりました

オンライン学習会
2023年1月27日(金)

WNJでは、「労働者協同組合法（以下労協法）」の成立に向けて4年前から本格的に活動してきました。昨年10月に施行されたこの法律に基づき、いち早く法人格を取得した二つのワーカーズ・コレクティブからお話を聞きました。

● 試行錯誤は、当事者も行政も厚労省も！

ワーカーズ・コレクティブ「Lavori」は生活クラブ組合員への家事代行サービスを、「キャリア」は配送をそれぞれ生活クラブ生協神奈川から受託しています。

任意団体だった「Lavori」は、法人格を取る計画を持っていて、取るならば「労働者協同組合」と決めていました。なぜなら、労働者協同組合が「ディーセントワーク」をめざしていて、基本原理もワーカーズ・コレクティブと同じです。すんなり受け入れられたからです。

一方、キャリアは長年「雇う-雇われる」の関係にひっきりなしを持ちながらも「企業組合」の法人格で事業を行ってきました。ようやく自分たちに合った法人格を取れると組織変更を決定しました。労働者協同組合法の目的が協同労働による地域の課題解決なので、両ワーカーズがめざしているものとぴったり合致します。

両団体が法人格取得（または変更）をする上で大切にしていたのは、時間を掛けて丁寧に議論を重ね、ワーカー全員での合意形成でした。

実際に事務手続きに入ると、何しろ申請する当事者はもちろん、担当する行政（神奈川県）も監督する厚労省にとっ



参加者は約90名。質疑応答では、法人格取得を検討している団体から、たくさんの質問が出ました。

ても初めてのことで、試行錯誤の連続でした。

法律をどう解釈するか、税金はどうなるか、など社労士、税理士といった専門職に相談したほか、中小企業団体中央会からも助言を頂いたり、厚生労働省の相談窓口にも毎日のように電話して尋ねたり、とあらゆる手段を使って設立申請に必要な書類を整えました。こうして、お互いに相談したり、時には励まし合って、ようやく念願の「労働者協同組合」を取得しました。

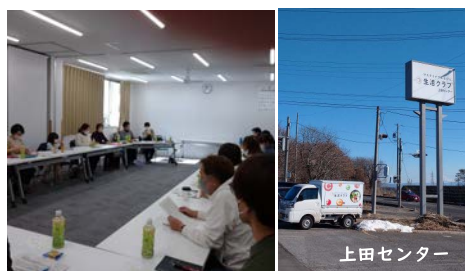
● 「さすがワーカーズ!」「これぞワーカーズ!」

キャリアの代表理事だった落合さんは、代表の仕事との兼任では務まらないと判断され「法人格取得に専念するために代表を交代した」という報告から、覚悟と気力が伝わってきました。この手続きは、行政書士などの専門職に依頼するとそれなりの費用が掛かるそうですが、周囲の助けを借りて協力しながら自力で手に入れるところは、さすが「ワーカーズ・コレクティブ」です。

そのような苦勞の賜物である法人登記の手続きに必要な書類一切を「後に続くワーカーズのために使って下さい」と全てオープンにしてくださいました。「これぞワーカーズ!」と感謝の念に堪えません。

銀行口座の引継ぎ、印鑑の変更など具体的な質問にも丁寧に答えていただき、検討しているワーカーズには大きな一歩を踏み出す会となりました。

多くのワーカーズが労働者協同組合となり、5年後の法の見直しの際には、この法律に足りないところを改善できる力になればいいと思います。(WNJ運営委員 小泉 佐栄)



上田センター

現在、拡大活動を精力的におこない4カ月で250人の加入があるなど、とても勢いを感じられる生活クラブ長野上田ブロック学習会参加のみなさんからは、「みんなが話し合い、皆で決めることの大切さに気づくことができました」「単協、職員との連携の大切さ、今後のワーカーズとしての役割について、また自分たちでコース設計し自分たちですめることの重要性を知ることができた」などの感想が寄せられました。ワーカーズを立ち上げていくこと、運営にも責任を持って働くことへのイメージを持つことができたのではないかと思います。

生活クラブ生協長野の上田ブロック個別配送導入に伴う配送ワーカーズ設立のための学習・懇談会が2月5日に開催されました。からは藤井代表他2名が参加しました。

ワーカーズ設立のための学習・懇談会開催

全国会議開催決定!



2024年
1月20日(土) 全体会
1月21日(日) 分科会
ハイブリット開催
会場: 埼玉県川越市
ウエスタ川越

基調講演: 立教大学 教授
藤井敦史先生

第6回 WNJ全国会議 in 埼玉
「いのちと暮らしを守るあなたたかな経済
ワーカーズ・コレクティブで広げよう!
社会的連帯経済」

冊子販売のお知らせ



労働者協同組合法を
やさしく解説!

編集: WNJ
発行: (一社) 市民セクター政策機構
A5判 64頁 頒価500円(税込)

ご希望の方は、
Eメール info@wnj.gr.jpへ
お申込みください。